

風

神戸大学 広報誌 [kaze]

Kobe University Public Relations Magazine

Jul.2016

Vol.07

特集1

文理融合の人材育成で先端科学を社会へ

特集2 神大研究スームアップ

古文書を眠らせない文理融合の知恵

神大生、実はすごいんです | 12
・女子タッチフットボールRooks

KOBE教育 | 14
・法経連携専門教育プログラム

キラリ神大OG・OB | 16
・在ワイジー語学学校マネージャー

特集1

新設「科学技術イノベーション研究科」の目論見と勝算

文理融合の人材育成で先端科学を社会へ

忽那憲治先生・近藤昭彦先生

2016年4月に設置された、神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科。

バイオプロダクション、先端膜工学、先端IT、先端医療学の理系4分野と、経営学のアントレプレナーシップ分野による、日本初の文理融合型大学院だ。

神戸大学の得意分野を寄せ集めたようでもあり、アントレプレナーシップという聞き慣れない言葉に、少なからず戸惑いを感じるかもしれない。

そもそも、文と理の融合は可能なのか。それで何をめざすのか。

キーパーソンのお2人に話をうかがった。

Strategic Entrepreneurship

二上山と甲山

六甲台キャンパスは文句なしの絶景ポイントである。甲南の街並から大阪湾、さらには淡路島、和泉・金剛・生駒の山系までも見渡すことができる。そんな山々の中で二上山は、二瘤駱駝のような形がメルクマールだ。ちょうど阿倍野ハルカスと重なるように見える。高い方が雄岳、山頂には無念の死を遂げた大津皇子が眠る。姉の大来皇女は「二上山を弟背と吾が見む」と惜しんだ。

二上山は実は「火山」である。但し、噴いたのは1400万年も前のことなので、噴火の心配はご無用だ。今の日本列島には110もの活火山があるが、近畿地方には皆無である。しかし、二上山が活動していた頃にはこの辺りに火山が密集していた。大和三山に数えられる畝傍山と耳成山もそうだし、紀伊半島には阿蘇を凌ぐ巨大なカルデラ火山が2つもあった。この頃の火山は「サヌカイト」と呼ばれる珍しい溶岩を流した。名前の由来は「讃岐」、鋭利に割れるので古代には石器や石斧として重宝された。二上山もサヌカイトの一大産地だった。



逆瀬川から甲山を望む



ハルカス展望台からの二上山



通天閣からハルカスの奥にかすかに見える二上山



百年記念館から二上山方面を望む

サヌカイトや巨大カルデラは、日本列島がアジア大陸から分裂した結果である。そのスピードは年間1メートルにも及び、大地が裂けた跡は日本海となった。38億年の日本列島史の中でも最大級の事件だ。

我々が六甲山系付近にもこの天変地異の名残がある。西宮の北西、おにぎりのように愛くるしい形の甲山だ。もちろんこれは火山地形ではない。サヌカイトの溶岩が地下深くから貫入して上昇した跡が残ったもので、直径は200メートルを超えるという。

スペクタクルを楽しみながら、日本列島の成り立ちに思いを馳せることができるのも神戸大ならではの醍醐味。

表紙写真：科学技術イノベーション研究科の学生たち

科学技術イノベーション研究科は、フラッグシップ研究と位置付ける重点4分野（バイオプロダクション、先端膜工学、先端IT、先端医療学）と事業創造に焦点を当てたアントレプレナーシップとの融合による日本初の文理融合型の独立大学院。42人の学生が科学技術イノベーションを自ら創出できる力をもった理系人材になることを目指します。

カメラ：大亀 京助





Graduate School of Science, Technology and Innovation

アントレプレナーシップで

先端科学に新しい価値を

interview 1

忽那 憲治

KUTSUNA Kenji



科学技術イノベーション研究科 副研究科長・教授
1964年愛媛県生まれ。1994年大阪市立大学大学院経営学研究科後期博士課程修了。博士（商学）。1992年財団法人日本証券経済研究所研究員、1995年大阪市立大学経済研究所専任講師、1997年同助教授、2002年神戸大学大学院経営学研究科助教授、2005年同教授を経て、2016年より現職。専門はアントレプレナーファイナンス。

「理」の最先端4分野が結集した新研究科。しかしその要に位置するのは、唯一の「文」であるアントレプレナーシップ分野だ。まずは、副研究科長で日本のアントレプレナーシップ研究の第一人者でもある忽那先生にご登場いただく。

ブレイクスルーの生かし方

—— アントレプレナーシップというのは、そもそもどういう……。狭い意味では、事業を起こすのにもなう活動や考え方です。「起（企業家活動）」や「起（企業）企業家精神」と訳

されたりしますが、じつはもう少し幅広い意味があるんです。既存の見方とは異なる見方でものを見えて、社会的・経済的な新しい価値が付与できないかを考え、やる意味があるなら活動を起こす。会社を起こす起こさないに関係なく、こういう思考方法や行動をアントレプレナーシップといいます。

たとえば、理系の先生が何かすごい技術を発明したとします。ブレイクスルーと言ったりしますが、これだけでは事業になりません。そこで、社会的・経済的価値を付与するために、つまり、イノベーションを実現するためにどういうことが可能かを考えていくのが、アントレプレナーシップという学問領域なんです。

—— 先生はなぜこの分野を研究されるようになったんですか。

ちよつと専門的になりますが、「情報の経済学」という学問が出てきたのが、大学院行つて何をしようかと考えていたころなんです。私は

文理融合で足腰が強くなる!?

—— 文理融合の新研究科ですが、学生は理系だけですね。心配な点は？

誰にも使われない研究をしている、社会で受け入れられると思いませんか、給料を払ってくれますかと問

もともとファイナンスの勉強をしているんですが、それまでの新古典派とよばれる考え方は「情報は瞬時に行き渡つて、効率的な意思決定が可能になる」という前提で成り立っていました。でも実際には「こつちは情報があるけど、あつちはない」という状況が一般的ですよ。これを情報の非対称性といいます。ファイナンスで考えると、大企業が銀行からお金を借りるより、起（企業）企業が資金を調達するときのほうが、情報の非対称性は大きいだろうなど。未公開企業のファイナンスを研究している人がほとんどいなかったこともあって、これはおもしろい領域だと思つたんです。

いかけたら、理系の学生もすぐに理解すると思いますよ。研究だけでなく、イノベーションを起こせるかどうか。それが、社会への貢献にも、高い給料にもつながるわけです。

これまでは経営学部でも、アントレプレナーシップの授業は1科目しかありませんでした。それがこの研究科では、1年を通じて8科目。経営に必要なヒト・モノ・カネの3領域を網羅したアントレプレナーシップを学ぶことができる、日本で最も充実した研究科だと思います。バイオプロダクション、先端膜工学、先端IT、先端医療学の4分野の学生が、月曜日だけは六甲台の社系のキャンパスに来て、全員で履修することになっています。

私自身は、神戸大学に来て15年、理系のキャンパスに行くことなんてほとんどなかったんですが、最近は階段を下りたり上ったり、1日に3往復もすることがあります（笑）。4月からは新研究科がメイン。経営学研究科は兼任担当で1科目教えるだけになりました。

—— 先端分野の研究とアントレプレナーシップはどう結びつくんですか。

1年目の後半から2年目の前半にかけて、各自の研究領域で事業計画をつくるための指導をします。最後の半年は修士論文を書きますが、こ

れも理系の研究だけではダメ。「事業化する」としたら」という視点を入れないと、要件を満たさないことにしています。新研究科の学生は、事業化するために何か必要かをつねに考えないといけないわけです。

大学に会社をつくった理由

—— 新研究科と関連して会社を設立されたそうですが。

今年の1月に「株式会社科学技術アントレプレナーシップ」を設立しました。オフィスは理系のキャンパス、自然科学総合研究棟の3号館にあります。

会社をつくるうと思つたのは、新研究科の立ち上げ準備をしているとき、何人かの理系の先生から相談されたからなんです。「研究を事業化しようとしたけど、ほとんど前に進まない。どうすればいいですか」と。

じつは以前から、20年来一緒にやっているメンバーと会社をつくる準備をしていました。神戸大学とはあまり関係なく考えていたんですが、「大学のなかで」ということになって、基金などを含めた枠組み（次頁参照）に再設計しました。

—— 新事業に投資するベンチャーキャピタルと考えていいんですか。

外部の投資家を入れてファンドを組成するのが、いわゆるベンチャー

研究科の目的

バイオプロダクション分野

木や草などの植物から、微生物機能を利用し、バイオ燃料やバイオ由来化成品の生産を行い、脱石油資源の循環型社会の実現を目指す

先端IT分野

HPC（スパコンを利用する高性能計算）とIoT（広域ネットワーク化情報技術）の連携により、情報通信デバイスとIT応用技術分野で世界最先端の研究開発を推進する

アントレプレナーシップ分野

文理融合のメリットを活かし、先端科学技術分野のシーズを基にして、グローバルな視点で競争力のある事業創造を行える理系人材（理系出身の戦略的企業家）の養成を目指す

先端膜工学分野

膜を用いて水浄化やガス分離を行うことで、省エネ・創エネプロセスによる資源循環型社会の実現を目指す

先端医療学分野

iPS細胞やコンピュータシミュレーション、新規ワクチン製造基盤技術などの革新的医療開発手法と医療産業特区の活用により新規治療法および診断法創出を総合的に推進する

キャピタルです。この会社も資金は提供しますが、ファンドを組成するわけではありません。シード・アクセラレーターといって、小口の資金提供とともに事業立ち上げの指導や助言を行う会社です。

社長は民間のベンチャーキャピタリストに来てもらいました。取締役は新

研究科の教授3人。私と、新しく神戸大学に来た2人、ベンチャーキャピタリストの山本一彦先生と、産学連携の技術移転を長年やってきた坂井貴行先生です。ここに知財専門の弁護士などを加えて9人ぐらいのチームをつくり、研究の事業化に向けたスクリーニングをしています。

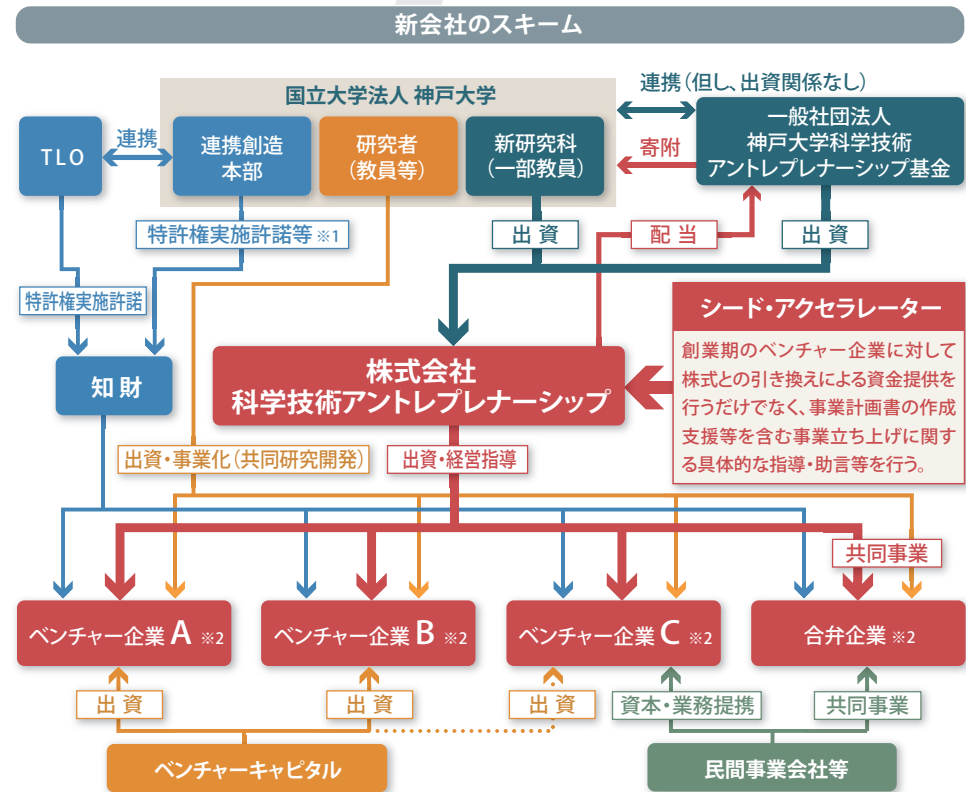


文理融合・分野融合でイノベーションを起こす

AIに負けられない人材を育成
——この研究科で学ぶと、将来どんな人になれるんでしょうか。

事業を起こそうとする人が出てくることも期待していますが、どこに行っても、どんな領域でもイノベーションを起こせる人材を育てたいと思っています。そういう人材が、今

後は間違いなく求められるでしょう。このままでは、人工知能やロボットに仕事を取られてしまうと思うんですよ。でも、異なる視点でものごとを見て、そこから価値を創造していくということなら、まだ人間が勝負できるだろうなど(笑)。そういう人材になりたい人は、ぜひ神戸大学に来てほしいですね。



※1:特許権実施許諾の他、特許譲渡・成果有体物移転等が考えられる
※2:株式会社、合同会社など柔軟な形態をとることができる

ハードに学ぶカリキュラム

——この研究科にはどんな特徴が？
世界トップレベルの最先端研究をしている4分野の教員、研究室と、忽那先生のような日本を代表するアントレプレナーシップの専門家が集まって新しい理系人材を育てる。こういう試みは日本初だと思います。

学生は最先端の科学技術をしっかりと

近藤 昭彦

KONDO Akihiko



科学技術イノベーション研究科 研究科長・教授

1959年長野県生まれ。1988年京都大学工学研究科化学工学専攻単位取得満期退学。工学博士。1988年九州工業大学講師、1993年同助教授、1995年神戸大学工学部助教授、2003年同教授、2007年工学研究科教授、2016年より現職。神戸大学統合バイオリファイナリーセンター長、バイオプロダクション次世代農工連携拠点拠点長。専門は生物化学工学。

研究します。従来の修士と同じようにハードに研究しながら、それとともにアントレプレナーシップを学ぶ。ブレイクスルーを起こせる人に、イノベーションにつながれる力をつけよう、ということです。

——4分野それぞれの授業は、従来の研究科と同じなんですか。

いえ、独自のカリキュラムにしています。学生は4分野のいずれかを重点的に学ぶんですが、他分野の科目も履修して、理系のなかでも少し視野を広げてもらう。産業技術実習も大きな特徴ですね。実習のある研究科って、日本にはほとんどないですよ。これも4分

野をひととおり経験してもらいます。

つまり、新研究科は文理融合だけでなく、分野融合でもあるんです。なぜかという、イノベーションは分野が融合するところから生まれるんですよ。パイオはパイオ、ITはITだったのが、たとえばスーパーコンピュータの「京」で細胞をシミュレートするとか。そういう分野融合をはかっていくことも、新研究科の大きな目的のひとつです。

違いを生かせるマインドを

——文理融合にはどんな意義が？
理系の研究者は、研究までいいとしても、事業計画を立てるとかはできないわけです。不幸なことに、私たちはアントレプレナーシップの授業をちゃんと受けていない。月曜日、ちよつと聞きに行こうかなと思っています(笑)。

新事業を創成できる人材が、日本はすごく少ない。足りなすぎるんです。大企業で同じことをしつかりやる分野は非常に強いんだけど、新しい事業を生むベンチャーは世界で最も弱いんですよ。

これは、失敗を許さない日本と、

失敗してこそ成功につながると見るアメリカというような、マインドの違いもあると思います。それと、アメリカなどでは学生がダイナミックに移動するんですよ。学部的时候は理系だったけど、大学院は社系に行くとか。日本はそこが弱くて、下から上に、社会に出てみずーっと固定的に上がっていく(笑)。新しいことに挑戦するダイナミズムがないのかもしれないと思います。

——融合にあたって、文理のカルチャー・ギャップはありませんか。

かなり違いますね。とにかく研究がぜんぜん違う。否定し合ったらきりがないと思います(笑)。だけどそれは、何をサイエンスしてるかの違いなんです。だから、おたがいのリスペクトから入らないとダメ。尊重し補完し合って、すぐれたものをつくり出しましょう。

一方で、カルチャーがぜんぜん違うと知ること自体が、大きな刺激になるはずだし、視野を広げるきっかけにもなると思うんです。どこに行っても、いろいろな人たちと事業をクリエイトしなければいけないわけで、連携してやっていけるマインド

をもつことも非常に重要ですから。

大学発で起業するメリット

——シード・アクセラレーターの会社にはどんな期待をされていますか。

教育の現場の近くで事業創造をすることが重要なんです。学生たちはまわりを見るんですよ。たとえば、アメリカのスタンフォード大学があるのはシリコンバレーの真ん中で、ベンチャーがたくさん起こっているエリア。起業して億万長者になったというような例が、まわりにいくつでも転がっています。こうなると、優秀な学生ほどベンチャーに行ったり、自分で起業したりするんですね。

このように新しいビジネスを起こせる風土を、日本を変えていくためにも醸成していかなければならないと思っています。神戸では、医療産業都市やリサーチコンプレックスなどのプロジェクトが動きはじめています。さまざまな新事業が創造されて、日本のシリコンバレーになるかもしれません。じゃあ、そこにある神戸大学は日本のスタンフォードかと(笑)。そうなるために最も重要なのが人材育成。新しい研究科が、その中核になるようにしたいですね。

カリキュラムの構成			
科学技術イノベーターの養成			
12単位 選択	バイオ・環境先端科目 ●先端バイオ技術概論 ●先端環境技術特論 ●先端食品技術特論 ●産業バイオ技術特論 ●農業バイオ技術特論 ●エネルギー技術特論 ●バイオプロセス工学特論	先端IT先端科目 ●先端IT社会学概論 ●先端ネットワーク特論 ●センサー・アクチュエータ特論 ●先端計算科学特論 ●社会ソリューション特論	先端医療学先端科目 ●先端医療学概論 ●臨床開発マネジメント論 ●再生医療学特論 ●分子標的薬・抗体医薬学特論 ●バイオリジクス開発学特論
8単位 必修	●アントレプレナーシップ入門 ●起業とベンチャー経営 ●ベンチャー企業の事業戦略 ●ベンチャー企業のイノベーション戦略	●コーポレートファイナンス ●アントレプレナーシップと法 ●アントレプレナーファイナンス ●知的財産法実務	専門科目 (アントレプレナーシップ科目)
2単位 必修	●科学技術アントレプレナーシップ・プロジェクト研究		専門能力
2単位 必修	●科学技術アントレプレナーシップ・プロジェクト研究		アントレプレナーシップ・プロジェクト科目
10単位 必修	●産業技術実習 ●プレゼンテーション演習 ●先端研究開発プロジェクト研究		実践的な先端研究開発能力
			先端研究開発プロジェクト科目

古文書を眠らせない文理融合の知恵



画像化を終え再製本された鐘紡資料

記録的な高視聴率で放送を終えた、NHKの連続テレビ小説「あさが来た」。ヒロインの白岡あさは、実在した女性実業家・広岡浅子をモデルにしている。このドラマの時代考証を担当したのが、神戸大学経済経営研究所の高槻泰郎先生。所属が少し意外だが、経済史がご専門で大坂・堂島の米相場を研究していたらしく、そのあたりの関連で「あさ」についてもお詳しいのかもしれない。そんな先生が、こんどは文理融合で何かに取り組んでいるという。こうなると、意外を通り越して見当がつかない。経済史で文理融合とはこれ如何に。最先端技術を導入したスーパーニューロ算盤でも開発しているのだろうか。少なからぬ期待と不安を抱きつつ、先生の研究室にお邪魔した。



interviewee
高槻 泰郎
TAKATSUKI Yasuo
経済経営研究所 准教授
1979年東京都生まれ。2002年慶應義塾大学総合政策学部卒業、2007年大阪大学大学院経済学研究科前期博士課程修了、2010年東京大学大学院経済学研究科後期博士課程修了。博士（経済学）。2010年東京大学大学院経済学研究科助教、2011年神戸大学経済経営研究所講師を経て、2013年より現職。専門は日本経済史。

かねて馴染みの広岡家？
—— どのようなきっかけで江戸時代の研究を始めたんですか。
学部的时候は金融工学が専門で、オプション取引とか、ワラント債とか、ああいう金融商品の価格付けを勉強していました。ところがある本で「世界で最初の先物市場は大坂の堂島米会所だ」というのを読んで、これはおもしろいな、研究してみたいなと思ったのです。

だから、最初は歴史じゃなかったんですよ。歴史の勉強をしたり、古文書を読んだりするようになったのは、大阪大学の大学院に入ってからです。その後、東京大学の博士課程に進んだのですが、その時に、広岡家とゆかりのある大同生命保険株式会社が、江戸時代から戦後に至る資料を、大阪本社の地下金庫に保管しているという話を聞いたのです。その後、江戸時代の米市場の研究と並行して、広岡家の史料を分析していました。

こういう経緯があって、私に「あさが来た」の時代考証の話が来たようです。時代考証を進めていくなかで、広岡家の子孫の方が、資料をお持ちであることがわかりました。調査に伺ったところ、古文書がどっさり見つかりました。江戸期から明治期にかけての古文書や古写真、生

活備品類です。これらの内、古文書と古写真を一旦神戸大学でお預かりすることになったのです。

—— 先生にとって、どんな価値のある資料なんですか。

江戸時代の大名は2つの方法でお金を調達していました。まず、各藩が大坂に置いた蔵屋敷は、そこに保管しているお米と交換できる米切手を発行していました。いわば「おこめ券」なのですが、みんなすぐに引き換えに来るわけではないので、ちょっと多めに発行できたのです。そして、米切手は市場で転々と売買されました。今でいう債券のようなものですね。

もう一つの調達方法は、銀行からの借り入れです。当時の銀行、つまり広岡家の加島屋や鴻池善右衛門などの両替商と差し向かいで、借用証文を書いてお金を借りていました。この資料のおかげで、私はかつて研

究していた米切手市場に加えて、大名金融のもう一方の柱であるバンキングを、より詳しく見ることができるようです。

大名を審査する両替商

—— 大名貸しというと、理不尽に踏み倒すイメージがありますよね。

ああいうのは、ことの一面でしかないのです。たしかに、大名たちがお金を返せなくなると、両替商がバタバタつぶれた時期があります。でも、そのときにグングン伸びた家もあるのです。厳密な審査をして、合格した藩には低い金利でお金を貸す。踏み倒すような藩とは最初から付き合わない。それが広岡や鴻池です。

お金を返さない大名はどうなるか。18世紀の半ば、萩藩が借金を踏み倒しました。その結果、大坂市場からбойコットを食らったのです。

当時の史料にも「萩藩産物は捨て売り同然」と記されています。萩藩は悲鳴をあげて、方針を180度転換しました。こんどは仲よくしようと考えて、広岡とパートナーシップを組んだのです。広岡のアドバイスを聞いて、借りたお金はちゃんと返す。返せないときは正直に説明して、いつ、どうやって返すかを相談する。これで広岡も安心して貸せるようになって、明治まで続く関係が始まりました。幕末政治史の背後にも広岡がいたわけです。

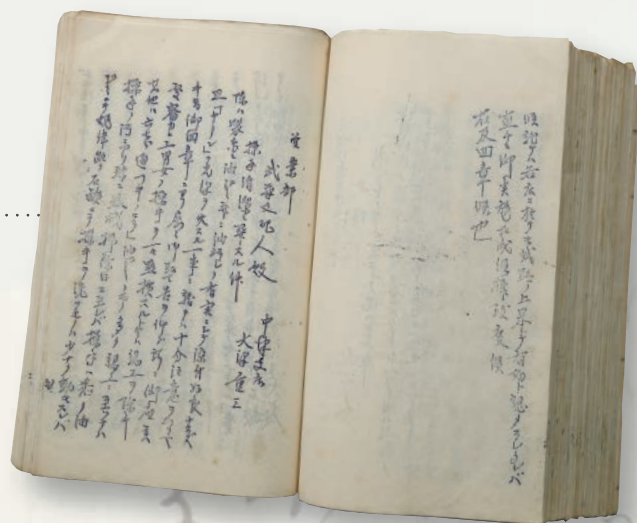
さらに津和野藩などは、藩のお財布を広岡に完全に預けていました。藩のすべての収入を、広岡が一旦受け取るのです。お金が必要になったら、広岡の口座から出してもらおう。じつはこれ、儉約にもなるんですね。お金を出そうとするたびに「何にご入り用ですか」と聞かれちゃうわけですから。そもそも津和野藩

—— 鐘紡というと、最近まであった会社ですね。あの総合メーカーの。ええ、多角化経営をした大企業の資料が大量にあるわけです。議事録などもきれいに残っていて、社内での議論をしていたかまで読めてしまう。今も続いている企業であれば、こうした内部資料は決して見せてもらえないと思います。その意味で大変貴重なのです。

まだ文書の中身の検索はできませんが、鐘紡資料のデータベースはすでにインターネットで公開しています。これまでの文系の発想では、貴重な資料

坂の上から眺めてみると

ら始めて、将来的には他の文字、あるいは江戸時代の崩し字まで拡張したいと考えています。



鐘紡資料より、明治から昭和にかけて鐘紡の支配人を務めた武藤山治宛の報告書。すんなり読めるだろうか。鐘紡資料データベースは、経済経営研究所のサイト (<http://www.rieb.kobe-u.ac.jp/>) でバナーをクリック。

江戸時代って、すごくのんびりした社会だと思われていますよね。でも、こと金融に関しては、驚くほど洗練されたシステムをつくっていました。明治以降、日本は急速に工業化を遂げたのですが、外国資本の導入によってではなく、国内資本によって成し遂げられたことが特徴とされています。これ

は、広岡家に対して支出項目を事前に提出していましたから、そのリストにない支出は広岡家が認めなかった可能性もあります。これは戦後のメインバンクシステムや、最近のリーションシップバンキングと全く同じ発想です。



は、江戸時代の資本蓄積に加えて、銀行や株式市場を運営できるだけのノウハウを、すでに身につけていたから可能だった。日本の近代化はペリー来航から始まったとされているが、江戸時代はその準備運動をしていたと思うのです。

達筆すぎても大丈夫!?

——ご専門からは縁遠いと思うんですが、文理融合でいったい何を？

手書き資料の分析です。広岡家の文書もそうですが、こういう崩し字で書かれたものって、ふつうの人は読めな

ち腐れになってしまいう可能性があるのです。そこで、手書き資料を画像化して検索できたらいよいよね、ということになりました。経済経営研究所長の上東貴志先生、企業資料総合センター長の伊藤宗彦先生と私の3人で話していたときのことです。私はなまじ読めるので、すぐにはピンと来なかったのですが、両先生は「資料を持つてただけじゃダメだ」と。じゃあパートナーを見つけようということ、上東先生がシステム情報学研究科を訪問されたのです。そんな経緯があって、画像認識の専

検索できる歴史資料で 神戸大学ブランドの一翼を担いたい

があると「誰か来るまできちんと取っておきましょう」だったのです。もちろん、貴重な資料を恒久的に保存するということがとても重要ですが、

持っているだけで、利用されないのはもったいない。個人情報などの問題がないものほとんど公開して、いろいろな人に使ってもらいたいなど考えています。神戸大学に資料を預けると、画像化してくれるし、検索できるようにもしてくれる。そうなれば、貴重な資料をもつ企業さんが「預けてみようかな」と考えてくれるかもしれませんよね。

高等商業学校から始まった神戸大学にとって、ビジネスの研究は柱でありアイデンティティだと思うのです。この世に一つしかない資料をお預かりし

て、デジタル画像化を進める。さらに、崩し字が読めなくても、特定のキーワードで検索できるようにする研究機関。それを実現することで、経営史研究の一つの拠点をつくるのが、今の私の夢ですね。

——教育についてはいかがですか。

「坂の上の雲」を猛然と追いかけて、坂の上に立った今、日本はちよつと息切れしていますよね。アメリカ・中国の背中を追って、「もう一度坂道ダッシュだ!」と腕まくりしている学生が、今どれだけのいるでしょうか。少なくとも私がこれまで受け持った講義について言えば、そうした学生は少数派です。

そうだとすれば、ちよつと立ち止まって、坂を上り始める前の日本を

門家で、この3月にシステム情報学研究科を修了したばかりの陳金輝先生に、研究所の助教として来てもらいました。

——文理を越えた就職ですね。どんな方法で手書き文書の検索を？

画像化した資料から、たとえば広岡浅子の「浅」という崩し字のパターンを認識させます。そのパターンをコンピュータで検索できるようにすれば、膨大な資料のどこに「浅」の字があるかを簡単にピックアップできますよね。検索して、当たりをつけて、あとは読めばいい。崩し字が読める人を雇って、該当箇所の前後だけを読んでもらうということもできます。

陳先生によると、画像から特定の形を抽出するというのは、技術としてはあるんだそうです。だけど、古文書なんて思いもしなかったと。斬新でおもしろい、情報学のほうで論文が書けそうだということで、それは私たちとしても大歓迎ですね。

今分析を進めているのは、企業資料総合センターが所蔵している鐘紡資料です。鐘紡資料には、明治以降に作られた手書きの文書が沢山入っているのですが、江戸時代よりは、文字の崩し方が弱いと言えます。江戸時代と違って、体系的な崩し方ではないのが厄介ではありますが、手始めに崩しの弱い、わかりやすい文字か



陳金輝 CHEN Jinhui

経済経営研究所 助教

1984年中国・廈門市生まれ。2009年福建師範大学工学部卒業、2013年神戸大学システム情報学研究科情報科学専攻博士課程前期課程修了、2016年同後期課程修了。博士(工学)。

学生時代は、顔表情認識を始めとしたパターン認識研究を行っていました。顔と文字では全く違うと思われるかもしれませんが、実は共通する研究なんです。両方とも、画像から特徴を抽出して、分類器モデリングにより、認識を行います。ただ、手書き文字は各文字がユニークで、数も膨大ですから、汎用的分類モデルを設計することが難しくなります。

古文書の検索というのは、すごく珍しい研究テーマなんです。歴史的な古い資料が沢山ある日本でこの研究をすることは有意義であると思いますし、文系と理系が協力できることも面白いですね。文系と理系の壁があっても、経済経営研究所の先生とは、数学という共通言語がありますので、壁を乗り越えることができるのではないかと思います。

見てもいいのではないかな。GDPで言えば、欧米列強とは比較にならないほど小さかった江戸時代日本ですが、今世界的に評価されている「日本独特の何か」は、その多くが江戸時代由来の文物であることに、もう一度目を向けてはどうでしょうか。堂島米会所の先物取引しかり、葛飾北斎しかり、和食文化しかりです。

アメリカや中国と同じルートで坂を登らなければ、欧米列強に侵略されてしまうのでしょうか？

もちろん、そんなことはありません。明治日本人よりも余裕を持って、江戸時代を眺めてみませんか、学生には問いかけたいですね。



神大生、 実は すごいんです！

タッチフットボール部 Rooks

主将 北山 菜生 に聞く

KITAYAMA Nao

ポジション: G (ガード) / DL (ディフェンスライン)
発達科学部人間行動学科 3年

女子タッチフットボールはマイナー競技だが、着実に全国的知名度を高めている Rooks。今年の1月3日に開催された第21回全日本王座決定戦「さくらボウル」で同点優勝、15年ぶりの2連覇を果たしました。今年、史上初の3連覇を目指すチームを率いるのは、主将の北山菜生さん。強さの秘密やキャンパスライフについて話してくれました。

— 5月21日に行われた春季全国大会「シュガーボウル」において27-13で社会人チーム「阪神ライオッツ」に勝利し、優勝しました。いかがでしたか？

率直にうれしいです。ただ、課題が見つかった試合でもありました。普段あまりやらないプレーをやって、相手の意表をつくトリックプレーが成功しましたが、堅実に攻める技術が足りていません。得点差があるときはいいのですが、接線でトリックプレーができず、攻める手段がないときにどう攻めていくのか。そこを強化していかなければならないと思っています。

— タッチフットボールとの出会いは？

合格発表の日に Rooks の先輩に声をかけていただいたのがきっかけです。初めて「タッチフットボール」という単語を聞き、「日本一を目指す」という言葉が胸に響きました。小学5年生から高校3年生までバスケットボールをやっていたので、大学でも続けようと思っていたんですが……運命的な出会いですね。

— 競技の魅力は？

頭脳プレーなところですね。能力だけではなく、戦術面が勝利の鍵になります。コーチと一緒に作戦を練りますが、上級生を中心に自分たちで戦術を考えます。相手がこうだから、こう攻めよう。試合当日は誰がどうするか動きまで決まっています。あとはそのとおりプレーできるにかかっています。

— チームの強さの秘密は？

神戸大はチャレンジ精神がある。お互い言いたいことは言い合って、成長していこうという気持ちが強いですね。下級生からも意見がどんどん出ます。主将としては、他の部員が落ち込んでいるときは「練習とどりにやっつけていこう」と積極的に声かけをしています。

— 今年のチーム目標を教えてください。

来年1月に開催されるさくらボウルで優勝して、史上初の3連覇を達成することです。主力が上級生なので、下級生の育成がポイントと考えています。シュガーボウルで優勝したぶん、他のチームから追われる立場。秋までにレベルアップしていきたいですね。皆さんのご声援よろしくお願いします！

〈教えて！神大生のキャンパスライフ〉

— まず、神戸大学を志望したのは？

志望校を考えたとき、スポーツ関係を学べる学部・学科で大学を調べました。私立大学への進学を考えていましたが、発達科学部人間行動学科にAO入試があることを知りました。9月までバスケットボールに明け暮れていた私にとって、一般入試で神戸大学を受験するのは難しいと……。推薦なら今までやってきたことが活かせるかもしれないと思い、受験しました。

— 現在、学部ではどのようなことを学んでいますか？

スポーツ社会学で、スポーツと人の関係性を学んでいます。プレーとは違うスポーツの面白さを発見できていますね。

— 食堂のオススメメニューは？

日替わりランチのクリームチーズ入りミンチカツデミソースとアイシチュウ巻き。他のランチメニューもおいしいんですが、これだけはメニューを見ると、注文してしまいますね。



PM 5:00

午後5時から8時まで基礎練習や試合形式の練習を行います。練習後には部員とご飯を食べに行くこともあり、かけがえのない時間です。



PM 12:00

部員が自然と集まる国際文化学部の食堂。たわいもない話もしまじし、試合に近いと対戦相手のビデオを見たり、戦術を練ったりしています。

史上初の3連覇を 目指して

女子タッチフットボール Rooks

Wilson
Rooks

KOBE UNIV. TOUCH FOOTBALL TEAM
since 1994



AM 8:30

発達科学部へは阪急六甲から原付で通学しています。友人の中には歩いて通学する強者も。足腰発達科学部とも言われているようです。

■インタビュー
学生広報ボランティア

鈴木 淳
SUZUKI Atsushi

農学研究科 博士課程前期課程 2年



複眼的な視点で社会問題を洞察 法学と経済学の対話

法経連携専門教育プログラム

report

2

問題解決実践研究

同プログラムを履修する主に3年生を対象として開講される必修科目です。

この講義は、修了研究に関する課題の設定を念頭に、法学の関心・経済学的関心の両方に関わる問題について研究を行い、社会科学で取り扱う問題を解決する実践的能力を養うものです。受講生を関心のあるテーマごとに分け、毎回2班がこれまでの研究を報告し、それについて受講生が互いに議論することにより展開。最終的には、グループで1つの論文を作成します。今回は「電子書籍の量と書店における書籍の売り上げの相関関係」「携帯電話解約金条項判決に関する経済学的検討」をテーマに報告がなされ、これをもとに議論。先生や他の履修生からより良い研究をするために、「テーマの論点」「資料の作り方・発表の仕方」「研究テーマや内容」について、助言、互いに指摘し評価しあう様子が見られ、受講生のひたむきな姿勢や互いに切磋琢磨しようとする様子が印象的でした。



report

1

法経総合概論

法学部・経済学部生向け専門科目で、法経連携専門教育プログラム生は基礎科目として受講が必修とされています。

初回はイントロダクションとして、「法学的思考と経済学的思考とは何なのか？」をテーマに講義。狙いは、法学的・経済学的側面が複合する具体的な裁判例を取り上げ、これをめぐり法学者と経済学者が議論することを通じて、法学的思考と経済学的思考との特徴を明らかにすること、そしてこれから法学と経済学をともに学ぶ意義を探ることです。事例として、ある語学学校の受講契約解約清算金をめぐり、受講生と語学学校との間に生じた紛争が取り上げられました（語学学校受講料解約清算金請求事件）。

一般に、法学は個人の権利や自由・平等に価値を見出すのに対し、経済学は社会全体の効率や公平を追求すると言われます。事例では「個別の取引をめぐる正義」が「全体としての利益」かをめぐり、法学と経済学との対立を見ることができました。

学部外の私でも法学・経済学の思考の違いが分かりやすく、社会科学が現実社会の問題を取り扱う上で、なぜ学際的なアプローチが必要なのかを掴むことができました。質疑応答では、経済学部生から判決について掘り下げた質問が挙がったように、他の学部の学問に対し興味を抱く学生はいます。そうした学生に応えるための教育体制は、より一層整備されるべきであると感じました。



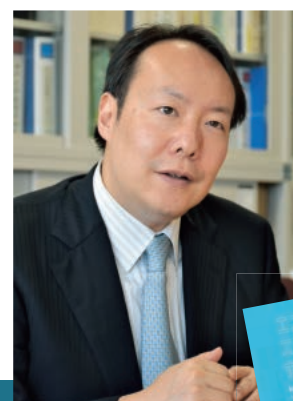
法学部の授業ばかり受講していると、ニュースなどを見る視点が偏ってきいているように感じることがありました。法学では法律の条文や判例を読み込むことを重視しますが、経済学には効率性という視点もあります。履修を決めたのは様々な視点を知り、自分の考え方をもちたいと考えたからです。

問題解決実践研究では、労働に関する課題を扱っており、インターンシップと新入社員の定着について研究したいと考えています。入社時に着目した先行研究はありません。私にとって就活におけるインターンシップは、学生のスキルアップという面が強いように思いますが、企業にはどのような効果があるのかを明らかにしたいです。プログラムの履修により他の学生よりも多くの時間を費やしますが、決して負担ではありません。法学部の普段の授業において、論文を読む機会や発表・議論する機会はゼミくらいですが、ELSプログラムはそうしたことを多く経験できます。経済学のことをまったく知らなかったですが、丁寧に分析方法を教えてもらいました。秋にはマレーシアでのワークショップに参加します。海外の学生とも交流できるので、とても楽しみです。



プログラム履修生
吉富 楓
法学部 3年
YOSHITOMI Kaede

法経連携専門教育プログラム(Econo-Legal Studies / ELS Program)は、法学・経済学双方の知識と見方を武器にして、今日生じている多くの現代的な社会問題を解決する力を備えた学生の養成を狙いとし、2010年にスタートした少人数教育です。法学部生と経済学部生が2年生から約2年間、講義やグループワーク、論文作成を通してともに学びます。具体的にはどのような場面で両視点が協働する必要があるのかを中心に取材しました。



担当教員
高橋 裕
法学研究科 教授
TAKAHASHI Hiroshi

ELSプログラムの特徴は1つの分野に留まらない法学・経済学の両方の素養を、2年半で身に付けられるよう設計していること。1年後期に「ミクロ経済学基礎」「民事法基礎」を開講。学生の興味にアプローチした後、2年次以降における「法経総合概論」及び演習を通じて、現代的な社会問題を解決する力を養います。また、実践的な知識とスキルを提供するため少人数教育を重視しており、多くの専門分野を持つ法学部・経済学部の教員が連携し、きめ細かい指導を行っています。ケーススタディを重視し、知識の応用力・実践的な問題解決能力を養成。さらにグループワークでは、学生間における高度な学術的対話の機会を提供し、学部を越えた知識の交流を促します。グループワークはこれまで本格的に学術研究に取り組んだことのなかった学生にとって、研究の進め方や方法論を自ら考え試行するといった点においても有効です。

履修するのは知的好奇心にあふれ、1つの学術領域では満足できない学生ばかり。培った知識・スキルを持って、社会のあらゆる場面で活躍できるものと期待しています。

柳川隆、高橋裕、大内伸哉編『エコノミカル・スタディーズのすすめ』有斐閣

プログラム修了生の声



上段左から：紅野さん、堀さん
下段左から：藪内さん、水浪さん

●履修を通じて、専門や認識が異なる多くの先生・学生の方々と接することができ、相手の考えを汲み取ることの大切さや自分の主張を伝える工夫の大切さを学びました。民間企業に就職しますが、こうしたスキルは社会に出てこそ生きてくるものだと思います。
(経済学部卒業・藪内真穂)

●法的には、最低賃金の規制のように正義や公正が必要です。一方、法学では経済学で着目される合理性や効率といった点をあまり気にしません。履修を通じ学問による考え方の違いを知り、幅広い知識・思考を受け入れることの大切さに気づきました。
(法学部卒業・堀晋暢)

●目的や問題意識はことさらに必要ではなく、むしろ先生方がヒントをたくさん示してくれます。「法・経済学部に入ったけど、これからどうしたいんだろう」といった学生は、履修を考えてみてはいかがでしょうか。
(法学部卒業・紅野匡紀)

●履修を通じて学問の面白さに気づきました。1・2年次はどうしても受け身の授業が多くなりますが、これに物足りなさを感じている学生には、ぜひともおすすめです。
(経済学部卒業・水浪愛巳)



永崎 裕麻 NAGASAKI Yuma

1977年、大阪府生まれ。神戸大学経営学部卒。「旅・教育・自由・幸せ」を人生のキーワードとして生きる旅幸家。2年2か月の世界一周後、世界幸福度ランキング1位(2011年、2014年)のフィジー共和国へ2007年から移住。100か国を旅した経験を活かし、内閣府国際交流事業「世界青年の船」「東南アジア青年の船」に教育ファシリテーターとして参画。

100か国の旅を通して得た 多くのチャンス、見えた新しい世界

日本から約7000キロメートルも離れた南太平洋に位置する国、フィジー共和国。

2011、2014年の世界幸福度ランキングで1位にもなった国で、語学学校のマネージャーとして働くのが永崎裕麻さん。
フィジーに在住し、内閣府の事業「世界青年の船」「東南アジア青年の船」にも携わった経験を持つ永崎さんの考え方と
行動力には、私たちとは違う何かがあるようです。その何かを探りました。

キラリ 神大OG・OB

在フィジー語学学校「Free Bird Institute」マネージャー

永崎 裕麻



永崎裕麻『世界でいちばん幸せな国フィジーの世界でいちばん非常識な幸福論』いろは出版

— 今ほどどんなお仕事をされていますか？

フィジー共和国で英語の語学学校のマネージャーとして、先生や職員を管理・統括しています。

— 今のお仕事を始めようと思ったきっかけは？

もともと、老若男女、様々な国籍の人々が1つの言語習得という目標に向かって集まる語学学校の雰囲気が好きでした。語学学校は海外が好きで人々が情報を持ち寄る場所で、情報の受発信の場所。単純にそんな場所です。また、内閣府の国際交流事業を通してフィジー(人)と出会い、これほど幸せそうな人ばかりの国に出会ったことではないと感じ、自分の価値観が変えられるのではないかと。そんな思いを持ちながら、

フィジーで自分の好きな語学学校を見つけ、この仕事に就きました。

— フィジーとはどんな国ですか？

外国の人はフレンドリーに話しかけてくるイメージがあると思いますが、私はその最たる国がフィジーだと思います。フィジーの人はみんな対等だと考えていて、例えばレストランでウェイトレスさんが皿を落としたら、お客さん含め、みんなで掃除します。とても平和で幸せな国。テキトリーな感じに最初はとまどいましたが、今ではすっかりなじみました。

— 内閣府の国際交流事業に多く携わっていると聞きました。

初めて携わったのは29歳の時です。若者の参加が多いなか、全体をまとめる役割を担うことが期待されていました。しかし、なかなか期待に応えることができず、後ろめたさを感じたり。にもかかわらず、事業を通して、フィジーという自分の住みたい国を見つけることができたんですね。恩返しをしたいと考えていたところ、何度かスタップとして携わる機会があり、少しでも恩返しすることができたのかなと思っています。自分がグローバル化の一端を担えていることをうれしく思いますね。

— 旅に興味を持ったきっかけは？

学生時代、就職活動の時期になって、当時の自分は就職に興味がないことに気づきました。そしてすぐに休学を決め、休学のために海外へ行こうと考えましたね(笑)。オーストラリアに語学留学をしたんですが、

そのなかで海外の空間や空気が好きだと感じました。

私は旅を通して「感じよく図々しく」なれた。そう変わったことで、いま多くのチャンスに恵まれているのかなと思います。

— 100か国を旅されたというのはすごいですね。

少しでも外国語を話せるということはその国籍の人と話すきっかけになり、お互いの距離を縮めることができます。また、行ったことがある国だと、テレビなどで見聞きしたときに国の情報がリンクし、知識が定着しやすい。私の経験で話すと、特に帰ってきてからのほうが、その国のことに触れる機会が多く、自分で勉強をしてより深く知ることができました。

— どのような学生生活でしたか？

アルバイトばかりやっていましたね(笑)。ボーリング場、塾講師など全部で40種類ほどやっていました。仕事内容が分からず、人間関係を作らなければならぬ最初の1週間だけを体験するとかね。アルバイトを変えるごとに面接を受ける。趣味が面接みたい(笑)。学ぶことが多く、アルバイトで培ったものが今に活かしていると感じますし、何よりコミュニケーション力が上がったと感じます。

— 今後の計画や夢はありますか？

最近講演などの依頼が増えてきたので、導かれるままにこなしていくことが自分の使命だと思っています。本を出す、フィジーに住むといったマイナーな道を進んでいるから



インタビュー 杉岡 祐依 SUGIOKA Yui 経済学部経済学科2年

こそ、多くの機会に恵まれているのかなど。これからもその時々にあったところに住みながら、人と違ったマイナーな道に居続けたいですね。人生というのは誰と、どこで、何をするかは重要だと思います。どこで、何をするかはフレキシブルに変えられますが、誰と、というのはとても大切。特に伴侶探しは苦心しましたが、最良のパートナーを見つけることができました(笑)。

— 今後留学へ行こうと考えている学生に向けてメッセージをお願いします。

日本人はインプットが多く、アウトプットが少ないと感じます。語学学校の学生によく「留学のLCC(Learning, Connecting, Creating)が大切だ」と話します。たいていの人は英語を学ぶLearningやホームステイなどのConnectingはできても、社会貢献、ボランティアなどを創造するCreatingまではなかなか到達しない。しかしこれがとても大切です。若い人は未来を生き抜く力があって、アンテナが高いので期待しています。

こんにちは！ 留学生です

世界各国から来た約1200人の留学生が神戸大学で学んでいます。このコーナーでは、母国の文化や習慣などの話を交えながら、国境を越えて頑張っている留学生にスポットを当てます。



パンブルームス県植物園



たそがれ時の首都ポートルイス

留学だより

ロンドン大学東洋アフリカ研究学院へ

私は、3年後期から4年次前期にかけて、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院(SOAS)へ交換留学しました。専門性の高い講座で専攻分野をさらに追究すること、大学院留学への足がかりとして語学力やプレゼンなどの実践的な力を伸ばしたいと思ったのが留学のきっかけ。現地では、社会人類学を専門に研究しました。

SOAS、そして多文化都市ロンドンでの生活を通して、私は「留学生」「外国人」として特別扱いされることがなく、多様な価値観を存分に享受することができました。また、生活の多くを占めた学業において、求められる膨大な課題や難解なディスカッション、そして自らの語学力不足に悩まされましたが、熱意のある教授やクラスメイト、友人に奮起させられながら、興味深い事例や理論展開を学び理解できたときの喜びは格別です。新たな学問的知識のほかに、日々粘り強く努力を続ける精神も鍛えられました。

留学から得るもの得たいものは人によって異なりますが、強い目的を持って進めば、他では得られない気づきや成長が経験できると思います。



現地の友人と(左が上嶋さん)

上嶋 友也 UEJIMA Tomoya
国際文化学部 4年



ロンドン大学SOAS図書館

日本で気になっていることは？

阪急電鉄神戸線で運行しているラッピング電車「爽風(かぜ)」です。ラッピングには4種類ありますが、特に「六甲山」という絵がお気に入り。「爽風」を見かけたときは、とてもうれしくなります。最近では家から徒歩で通学しているので、あまり見る機会がなくて悲しいです。



阪急電鉄神戸線 ラッピング電車「爽風(かぜ)」
© わたせせいぞろ／APPLE FARM INC.

将来の夢について教えてください。

日本とモーリシャスの関係をもっと強くなりたいです。それが日本の大学を受験した理由でもあります。政治・経済協定は締結していますが、文化的関係は薄いのです。私自身の経験で言うと、今までモーリシャスで日本の文化・歴史・言語に触れるチャンスは一切ありませんでした。具体的には、独立行政法人国際交流基金(The Japan Foundation)のように、文化芸術交流の拠点をモーリシャスに作りたいです。現地で日本語を教えたり、日本の文化を発信していきたい。日本のことが好きなモーリシャスの人は多いです。もっと両国の関係が親密になるよう、頑張りたいです。

趣味は？

●ラジオ…料理や掃除中に最新のジャパニーズミュージックを聴いています。
●カラオケ…音楽プレーヤーにもロックやポップスなどジャパニーズアーティストの曲をたくさん入れています。演歌は好きですが、難しいのであまり歌いません。今年の誕生日は、友達とカラオケでオールナイトしました(笑)。大好きです！

神戸大学生とは仲良くなりましたか？

神戸大学に来てすぐの頃、百年記念館の階段のところで写真を撮っていたら、近くに座っていた学生が振り返ってきたんです。写真を撮っていることに怒られるのかな……と思いましたが、「留学生と友達になりたい」と言って声をかけてくれました。英語の練習もしたかったようで、たくさん会うようになりました。初めてできた日本人学生の友達です。それからは、その友達がサッカー部に所属している縁で、他のサッカー部員とも仲良くなりました。

今後挑戦したいことはありますか？

モーリシャス人である私にしかできないことをしたいです。たとえば、日本にいる間、日本人に母国の魅力を紹介したり、日本とモーリシャスの共通点と特徴について語り合ったり。モーリシャス産の紅茶、コーヒー、お菓子、石炭などを持って、「モーリシャスの食べ物、飲み物は美味しいですよ。そして、自然豊かなところ。海があれば、森や山もありますよ」と伝えていきたいです。

現在の研究テーマは？

モーリシャスの経済史を研究しています。2000年頃まで砂糖が一大産業で、海外に輸出していました。元々無人島だったところに、奴隷制度でフランスやイギリス、インドなどから多くの人が移住し、様々な国籍の人が集まってできた国。今は観光地としてビーチが有名です。あまり知られていませんが、繊維工業も有名。衣服を購入するときには「Made in Mauritius」かチェックしてみてください。今は、モーリシャスの経済に関する本を読んで、担当の先生にレポートを提出しています。学部生や院生向けの授業もたくさん受けています。研究メインの生活です。



現地カレーにシャティニ

日本に来て驚いたことは？

料理の組み合わせ。たとえば、ごはんやサラダと一緒に食べる習慣には驚きました。モーリシャスでは、サラダはパンと一緒に食べます。あとは冬が寒く、夏はとても暑いこと。モーリシャスは気温の寒暖差が比較的小さいです。去年は手足が冷え、とてもにがい思いをしました。今年はしっかり対策します。

モーリシャスと日本の架け橋を目指して — 母国を日本に広めたい —

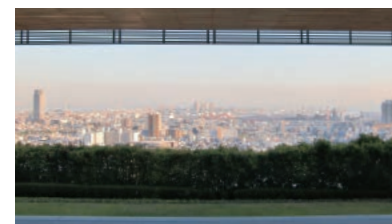
モーリシャスは一体どこにあるのか？ 何で神戸大学に？ そんな疑問を抱きつつ、経済学研究科の研究生・ペレグリンさんのもとを訪れました。聞けば聞くほど、ジャパニーズ愛に溢れているペレグリンさん。彼にとっての日本、そして神戸大学とはどんな存在なのでしょう？



モーリシャス語：こんにちは！

学内のお気に入りの場所は？

神戸大学は六甲山のふもとにあるので、やはり眺めが何よりです。百年記念館やアカデミア館、フロンティア館からの眺めが好き。山に囲まれており、各建物の前から見渡せば、果てしなく起伏に富む、息をのむようなすばらしい海の景色。山も見えれば、緑も港も島々も美しく見えます。



百年記念館から神戸港を望む



アカデミア館から六甲山を望む

神戸大学に来る前はどのようなことを？

神戸大学に来る前はオーストラリア・シドニー大学の学部生。日本とフランスの国際関係の歴史を学んでいました。日本に興味を持ったきっかけは、子供の頃見ていたフランスのテレビチャンネルで放送されていた長寿クイズ番組。日本人が出て、勝利を収めました。全部フランス語だったのに最後までクリアし、感動したことを覚えています。番組の終わりに、彼が日本語で何かを言ったあとに、フランス語で「私の言ったことが分かっていたら、是非日本語を勉強してください」とメッセージ。胸に突き刺さりました。卒業後、モーリシャスと日本の関係について学びたいと思うように。ずっと日本語を勉強していたし、直接日本で研究したらいののではないかと、日本政府(文部科学省)奨学金研究留学生に応募し、マダガスカルに日本大使館で試験を受けました。

ティエリー・ペレグリン Thierry PELLEGRIN

経済学研究科研究生
モーリシャス出身。2015年10月、神戸大学に入学。
好きな日本語は「道」。日本語能力試験N1取得。



モーリシャス

正式名称はモーリシャス共和国(Republic of Mauritius)。アフリカの国家で、イギリス連邦加盟国。インド商人の貿易中継地になっていたため、インド系住民が過半数を占める。フランスやイギリスなどの植民地だったため、フランス語や英語、モーリシャス語が話されている。人口は約130万人。



小学校に隣接する児童館の見学



集会所で手芸をしている様子



現地訪問後、学生自ら広報誌を発行



東北ボランティアバスプロジェクト代表

稲葉 滉星 INABA Kosei
工学部建築学科 4年

私たちにできる復興支援はまだまだある！ 継続的な活動で「忘れない」そして「寄り添う」

震災による被災者のこころのケア——「東北ボランティアバスプロジェクト」

東日本大震災から5年。時の経過とともに少しずつ復興が進む反面、未だ生活に不安を抱いている人は多い。本学の学生から成る「東北ボランティアバスプロジェクト」は、震災直後の2011年4月から活動を開始。岩手県陸前高田市と釜石・大槌地区の2地域に班を分け、2ヶ月に1回、5〜7日間の滞在で、被災者への足湯と手揉みや手芸教室を主体とした支援活動を行っている。同団体に、改めて現地の状況や活動内容、今後の展望を聞いた。

2つの地域を拠点に活動被災者との絆を深める

東日本大震災後、初期メンバーがバス1台で神戸から岩手県に向かったことが「東北ボランティアバスプロジェクト」の始まりです。以来、私たちは被災者の精神面のケアを意識した活動を行ってきました。今までの参加学生数は延べ1000名程。毎回10〜20名で陸前高田市と釜石・大槌地区

区の地域を交互に訪れ、さまざまな施設で足湯と手揉みや手芸教室を中心に行っています。「気持ち良い」「参加している間は震災を忘れられる」というお声を励みにしながら、結成当初からずっと続けています。釜石・大槌地区では現地のボランティア団体と共同で活動をする場合もあり、もともと本学が地域連携協定を結んでいた陸前高田市では、お祭りなど地域の行事を手伝う機会もあります。メンバーの中には被災された方と手紙やメールで連絡を取り合い、個別で会いに行く人も。皆さんとは日々、絆が深まっていると実感しています。

継続した活動の中でより良い支援を追求

私たちが掲げている理念は、「忘れない」そして「寄り添う」。震災から5年、一部地域では仮設住宅から復興公営住宅への移住が見られるようになりました。喜ばしい進展ではありますが、慣れ親しんだ場所から離れる

今年3月、初めて現地を訪れました。仮設住宅の方々とお茶会を開いた際「家が津波に流された」「親族が亡くなった」という話を聞き、胸が締め付けられる思いでした。市内の住民会議にも参加しましたが、直接津波の被害を受けていない町でも、震災による近隣施設の崩壊、交通機関の未整備など、課題は山積みです。

現地の方の誰しにも、震災の爪痕が残っています。復興のために何が正しいのか、被災された方々が心から喜ばれる支援は何か、私はまだわかっていません。ただ、今回の訪問では「寂しかった」と言う方がお茶会で笑顔を見せてくださるなど、力になれていると実感できる場面が多々ありました。今後は、参加率の少ない男性が楽しめるような囲碁・将棋大会など、新しい企画もどんどん提案していきます。現地の活動を続けながら、本当に必要とされる支援を見極めていきたいです。



吉田 あかり YOSHIDA Akari
法学部法律学科 2年

現地に行き続けることが復興支援への第一歩

陸前高田班



森 大樹 MORI Taiki
国際文化学部国際文化学科 2年

ボランティア参加当初は「自分にできる支援はあるのか」と疑問がありました。今では「たくさんある」と確信しています。最近では小中学生の学習支援を構想中なんです。震災によって将来を悲観している子どももいるので、勉強だけでなく、大学で学んだ専門知識を生かし、未来に希望が持てるような刺激を与えていきたいです。

お宅を一軒一軒訪問し話を聞く自分にできる支援を見つける

仮設住宅で足湯と手揉みを行うことが多いのですが、住人の方全員が参加して下さるわけではないんです。そこで私が始めたのは、一軒一軒のお宅への訪問。話を聞いてみると「体調が優れない」「耳が不自由」という理由から参加を躊躇される方もいらっしゃいました。でも、中には「行きたいけど輪に入りづらい。久しぶりに人と喋れて嬉しい」と喜んでくださる方もいらっしゃったんです。些細なことですが、私が話を聞きに行くだけでも役に立てることがあるのだと気付きました。

大槌・釜石班

神大プロフェッショナル

教育・研究に最高の環境を提供したい 農場の若き女性スペシャリスト

私は現在畜産系で、主に牛の繁殖を担当しています。生き物を相手にしているので、日頃から異常がないかよく観察し、牛の体調管理には特に気をつけています。大変なことも多いですが、その喜びも多いですよ。子牛が無事に生まれ、元気に走り回っている姿を見ると、喜びもひとしお。また、農場実習で学生を指導することもあり、リアクションの

大きさに元気をもらいますね。自慢は何と言っても、お肉（神戸ビーフ）の品評会で最優秀賞を取ったこと！育てた牛が市場に出荷され、最高の評価を受けるのは本当にうれしいです。専門性が高いからこそ、学ぶべき期間は長い。経験を積み重ねて、スキルを高めると同時に学生にも分かりやすく伝授していきたいですね。



神戸大学ビーフ

農学研究科附属食資源教育研究センター 技術職員 辻 絵美 TSUJI Emi

ことが被災者の精神的なストレスに繋がるといった懸念もあり、最悪の場合、うつ病や自殺に繋がるとも言われています。

東北を訪れるボランティア団体が増減傾向にある中、まず私たちにできる支援は、継続的な現地訪問です。仮設住宅に残った方はもちろん、復興公営住宅に移った方のことも「忘れない」で取り組み「寄り添う」活動を志しています。より良い支援のためには、今の活動内容の見直し、他団体の活動やメンバーの意見を積極的に取り入れられる体制の構築が必須。私は今年4月に起きた熊本での地震の支援活動にも参加しています。初めて避難所で足湯と手揉みを行い、改めて穏やかな空間作りの重要性を学びました。岩手、熊本で得た知識や経験をフィードバックし合えば、各活動に好影響を与えられるのではと考えています。今後もメンバーが各々で学んだことを生かし、ミートイングを重ねながら、被災された方々のこころのケアとなる支援を進めていきます。

支援金のお願い

東北ボランティアバスプロジェクトは、神戸大学からの支援の他、学生からの参加費、皆さまからの寄付金で運営しています。ご支援お願いいたします。

【郵便振替口座】
口座番号：00910-9-328530
名 義：神戸大学東北ボランティアバスプロジェクト

中東欧諸国との国際交流拡充をめざして — 神戸大学ポーランド拠点(クラクフ)開所記念シンポジウムを開催 —

http://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2016_05_27_01.html



5月17日にポーランド・クラクフで神戸大学ポーランド拠点(クラクフ)開所記念シンポジウム「New Research Perspectives from Japan and Poland」(ヤゲウォ大学共催)を開催し、ヤゲウォ大学の研究者、学生、その他中東欧

諸国在住の研究者など50人を超える参加がありました。
ヤゲウォ大学は、神戸大学と2013年10月10日に大学間学術交流協定及び大学間学生交流実施細則を締結し、活発な国際交流を行っている欧州の協定校の一つです。

シンポジウムでは、既にヤゲウォ大学と研究及び教育面で盛んに交流が行われている分野の中から、生物学、比較文明研究、日欧関係論を取り上げ、最先端の研究と共同研究の成果を発表し、今後の協力を展望しました。また、開所シンポジウムに合わせて、ヤゲウォ大学比較文明研究所では、「Global Issues in Current Japan」をテーマとし、神戸大学のシンポジウム参加研究者7名がヤゲウォ大学の学生に対し講義を行いました。

神戸大学ポーランド拠点(クラクフ)は、2015年10月22日にヤゲウォ大学の協力のもと、ヤゲウォ大学比較文化研究所内に開所した神戸大学の海外拠点であり、2008年中国・北京に開所した中国事務所、そして2010年にベルギー・ブリュッセルに開所したブリュッセルオフィス、2015年4月にベトナム・ハノイに開所したハノイ神戸大学連絡拠点に続く、4番目の海外拠点になります。



ポーランド拠点(クラクフ)

神戸大学基金だより

税額控除制度が導入されます

これまで神戸大学基金への個人からの寄附に対する税制上の優遇措置は「所得控除」でしたが、平成28年度税制改正を受け、神戸大学は「税額控除」対象法人となるよう文部科学省へ申請中であり、対象事業となる奨学金の創設に向けて検討を進めています。承認されましたら、平成28年1月1日以降にいただいたご寄附のうち本奨学金に対するご寄附は、「税額控除」と「所得控除」のいずれかを選択できます。(申請の結果は本学ホームページ等でお知らせします)

● 減額される所得税の目安

例: 給与収入700万円・課税所得400万円の方が3万円寄附した場合

税額控除: $(30,000 - 2,000) \times 40\% = 11,200$ 円

所得控除: $(30,000 - 2,000) \times 20\%$ (所得税率) = 5,600円

● 対象事業となる奨学金について

経済的困窮度が高く、かつ、特に成績優秀な学生を支援するための奨学金創設に向けて検討を進めています。

[お問い合わせ先] 神戸大学基金推進室(企画部社会連携課内)
TEL: 078-803-5414 E-mail: kikin@office.kobe-u.ac.jp

同窓会・校友会・育友会

アラムナイ



<http://www.city.kobe.lg.jp/information/press/2016/02/20160222012001.html>

● 校友会支部だより

- ① 校友会 同窓会に関すること
- ② ホームカミングデーに関すること
- ③ 神戸大学コミュニティネットワークに関すること

Topics トピックス

● 卒業生課の設置

2015年10月1日付けで企画部に卒業生課を設置しました。

Mini News

英語サイト 大幅リニューアル

今年3月1日、英語サイトをリニューアルしました。以前から、「情報が見つけにくい」「訴えたいことが分からない」などの声が寄せられており、関係者でワーキンググループを立ち上げ、議論を重ね、完成しました。



1. トップページで神戸大学の特徴を表現!
2. 少ないクリック数で欲しい情報が手に入る!
3. 知りたい情報との関連情報が同じページに表示される!

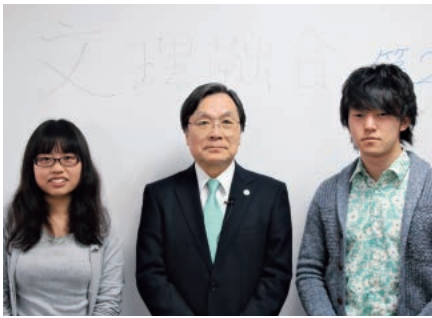
神戸大学サイトトップページ→
右上バナー→English
<http://www.kobe-u.ac.jp/en/>



武田廣学長インタビュー第2弾公開中!

学長の生の声を引き出すべく、学生広報ボランティア2人が果敢にインタビューしました。海外での経験話や趣味といった話やクォーター制や学部再編、分野を越えた協働の推進など学長としての思い・考えなどを聞いています。

今年2月から、2016年度学生広報ボランティア活動がスタートしています。大学と学生の「協働広報」を合言葉に、学生が大学広報に参加。15人を超える学生が自身の手で情報発信し、神戸大学・神戸大学生を学内外に広くPRしていきます。インタビューのほか、広報誌コンテンツ「KOBEE教育」「キラリ神大OG・OB」など随時取材を実施。その他大学グッズの新商品開発やキャンパスツアーの実現に向け、活動中です。活動ページもありますので、是非ご覧ください。



神戸大学ウェブサイトトップページ→
右バナー「広報活動」→「学生広報ボランティア」
<http://www.kobe-u.ac.jp/info/public-relations/student-volunteer/index.html>



神戸大学ビジョンのキャッチ コピーとイメージ図が決定!

2015年10月から12月にかけて在学生、教職員、卒業生を対象に募集し、キャッチコピー部門32点、イメージ図部門9点の応募がありました。今後、広報媒体を始めとしたあらゆる分野にて活用し、世界最高水準の教育研究拠点構築を目指すためのツールとして活用していきます。

■イメージ図
利根川公司氏ら協働グループ
(平成18年神戸大学大学院 自然科学研究科 土木学専攻修了)



■キャッチコピー
利根川公司氏
Initiative for Excellence
卓越研究のハートファイブを

日々情報更新中!



神戸大学公式 Twitter
@KobeU_PR



神戸大学公式 Facebook
「神戸大学 _ Kobe University」



「フォロー」「いいね!」
お願いします。

読者の皆様へアンケートのお願い

神戸大学広報誌『風』7号をお読みになったの感想をお聞かせください。今後の誌面作りの参考にさせていただきます。

1. どの記事に関心を持たれましたか 2. その記事についてどのような感想を持たれましたか 3. 今後読みたい記事 4. その他何でも感想を

アンケートの回答は神戸大学広報課の
メールアドレスをお願いします。

✉ ppr-kouhouhitsu@office.kobe-u.ac.jp

※ご職業、年齢を書き添えていただけると幸いです。

WEBフォームもありますので
今すぐアクセス!





コンテンツをリニューアルしました。学生の登場が少ないという読者の声、また4年目を迎えた「風」を見直す時期と捉え、神戸大学がいま伝えたいこと、読者が求めているであろう情報を盛り込んでいます。目玉は前回の6号に関連した、「文理融合」を実践する科学技術イノベーション研究科。進化した「風」、ご一読ください。

(広報課)

風 Jul.2016
Vol.07

発行日/2016年7月

編集・発行/神戸大学総務部広報課

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

TEL/078-803-5083

FAX/078-803-5088

アートディレクション・デザイン/有限会社ヲクリエーション

印刷/能登印刷株式会社

©2016 神戸大学

※本誌に掲載されている記事、写真、図表の無断転載を禁じます。